



## 町長エッセイ



今年、新型コロナウイルス感染症対策の中で戦後75年の節目の年を迎えました。

小川町では、戦争の悲惨さを風化させることなく、平和の尊さを次の世代に伝えていくために、広島平和記念資料館の協力を得て、原爆パネル展を平和事業として10年以上続けています。

今年、町立図書館で9月8日～22日の間、広島の高校生が描いた「原爆の絵」展を実施しました。高校生の皆さんが被爆体験証言者に聞き取りを重ね、1年間かけて仕上げた絵画です。悲惨な被爆体験を描いた高校生も、描かれた絵を見た私達も、

被爆体験証言者の思いを受け継いでいくことでしょう。

同時に、小川町の戦時下での様子を伝える「出征兵士と家族写真」の展示も開催していました。戦争を語ることのできる体験者も少なくなりました。貴重な多数の写真の中には身近な人もいて、別れを覚悟して夫や息子を戦場に送り出した家族の写真と、「戦争は思い出したくない」と言いながらも残してくれた思い出から平和の尊さを改めて痛感しました。

松本恒夫